

練稲Press

No.004

大盛況の早稲田大学交響楽団 「第10回ニューイヤークンサート」開催

立春を過ぎ寒さがいくらか和らいだ2月11日(木・祝)夕刻、練馬文化センター大ホールはワセオケファンで満席となった。恒例の「みどりの葉っぱい基金」への寄付の贈呈が荻野隆義会長から、今回から共催となった練馬区の前川耀男区長に手渡された。小林大輔さんの司会、曾我大介さんの指揮により、ワーグナーの歌劇「タンホイザー」「ローエングリン」に続き、第10回にふさわしく飛び入りの超大物ゲスト、ベルリンフィルの首席ホルン奏者・シュテファン・ドール氏をむかえて、モーツァルトの「ホルン協奏曲」、ドボルザーク「交響曲・新世界より」が華麗に演奏された。世界的ホルン奏者の美しくやさしい音色、溢れるサービス精神に会場が魅了され、10回目にふさわしい記念すべき2時間となった。



(写真：岡田 吉郎)

初めての「新年会」開催 来年もぜひ…との声多く

2016年1月16日(土)、初の試みとして新年会を開催した。17:00～豊島園の「カリノ」にて、飲み放題で5000円と格安。

懐かしいオールディーズのフォークソングを歌う早大出身者を中心としたDREAMERSのライブ演奏のビュッフェパーティーには、小島幹事の熱心なプロモートにより70名超が参加し、新年にふさわしい賑やかな懇親会となった。



恒例の「七福神めぐり」 新宿山の手で…

早春のような暖かな日が続いた正月5日(火)12時に毘沙門天を祀る神楽坂の善国寺に集まった善男善女は40名。ここをスタートに新宿の7番目の布袋様の太宗寺まで3時間半。プラタモリならぬブラブラ歩きですっかり疲れ果てたが、落伍者もなく全員完歩。途中でこのコースは2回目であることを思い出した。

八巻孝夫リーダーの適切なレクチャーも随所であり、これまでとは一味違った新年の一日となった。



「お花見会」今年も石神井公園・三宝寺で

4月2日(土)朝方は小雨模様のお天気が、お昼前にはその心配もなくまさに春爛漫、花曇りの穏やかなお花見会となった。

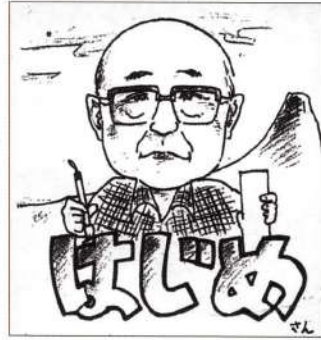
毎回、お花見会は日時の設定に苦労するが、ちょうど桜も見ごろ。40名の皆さんは、お酒、ビールで盛り上がり花の季節を満喫した。

散会後は、もう一杯という方やマージャン組にわかれての一日となった。



学友会借金返済委員長

本田 はじめ



昭和二十八年四月、法学部へ入って見たら、前年がワセダ事件で警官隊が学内に入り、学生自治会は解散させられて、サークルの元締めが学友会で、授業料と一緒に会費が集められていたから、何かしたい学生はサークルに入れられた。

英会話会もあったが法史学会、法社会学研究会などがあり、丁度公法研究会が有倉教授(憲法・行政法)の研究室の大学院生たちを核に募集をやっていた。新日本国憲法が出来てまだ六年の時代だ。早速新入生が大勢入会した。

法学部入学の四百五十名(定員)の中で女性はたった九名。外国語選択の都合でA組とM組にクラス分けされ、その中のK組に私は入れられたのだが、な

んと女性九人もK組に入った。

そして彼女たちは皆、サークル入会を選択した。偶然とはいえ、小学校以来男ばかりのクラスしか知らない私は、大学に入って初めて女性の同級生を持つことになった。他の男組の連中の羨ましがること！私が入った公法研究会へは一人も入らず、刑法研究会とか法社会学研究会とか英会話会とかへ散らばった。

ところが大学が選んだ学友会会長は、企業家精神の旺盛な二年生で、横山はるひバレエ団の公演を大隈講堂でやるという契約をしてみました。世情混沌の時代、大学も目配りしていなかったらしい。公演は赤字で学友会予算を使い込んでしまった。

すると所属の各研究会へは講師料、事務費などが支給されることになっていたのでゼロになつてしまい、サークルは皆困つた。サークルの代表が集まって協議の結果、代表が大学当局に掛け合い、なんとかならぬかと相談した。

法学部長野村平爾先生も、サークルが困っているというので

大学と相談して下さって、学友会に金を貸し年賦で返済することになったが、分配する学友会費は毎年学生から集める金を切り詰めるほかない。

私がサークル代表で委員長になって、借金返済の代表者となり、漸くサークル活動にメドがついた。大学一年は返済委員長で、結局卒業までサークル代表をさせられた。折角女性のいる法学部のクラスというので他のクラスの連中からは羨ましがられたが、デイトをするひまもなく、私の大学は終わった。し

少年とのきずな

栗原 英明



群馬県の農家の男5人兄弟の3男として昭和17年に生を受けたが、その後すぐに満州にわたり、終戦直前に命からがら逃げかえった引揚者だった。そんなことで小さい頃は3度の食事にも事欠くありさまだった。いま

かし彼女たちは私の苦勞を知っていたので、その面で同情してくれたのだろう。卒業後も頻りにクラス会があり、住友銀行や帝石、豊田、千代田生命などの級友がクラス会を支えてくれて、これは平成二十七年まで有志クラス会を開いてくれるくらいに続いている。

アルバイトもいろいろやって、弟妹に時々送金するような稼ぎ方だったが、学生時代の始まりに色々経験したことは、以後の人生で血肉となったような気がしている。(S32・法)

となつてもあまり思い出したくない辛い切ない記憶が甦ることがある。

そんな少年時代を過ごしてきたため、ワセダに進学するのにも入学金を出してもらおうのが精いっぱい。いちどは諦めかけた大学だが、月額1万円の奨学金のほかはアルバイトに精を出し、なんとか卒業までこぎつけた。当時の授業料は月3000円。生活費はどう切りつめても月2万円ほど。長兄の下宿に転がり込んでなんとかやり繰りし

てきたが、どうにかこうにか卒業することができた。

そのアルバイトでは、忘れられない中学1年の少年がいた。彼は文京区富坂の中学生で、父親は鉄工所を経営する豊かな家庭だった。

高校にも行けなかった両親の願いは、彼を学習院大学に入学させることであつた。その期待を一身に受けた彼の進学の責任を果たすために、両親ともいろいろ相談した。最初に考えたのは、受験のための勉強ではなく、まず腕より始めよ……である。体力強化、チャレンジ精神をつけるために、スキー、ボウリングなどもつばらスポーツに連れ出した。

家庭教師ではなく、さながら兄弟のような関係になった。当初両親から勉強は？……というクレームもいただいたが、当初の信念を貫いた。

果たせるかな見事合格。少年はもろろんご両親のあのうれしそうな笑顔は今でも思い出す。

つらく苦しかったあの頃だが、このお宅でいただいた鰻重や上天井の味、そして何よりもご両親、少年との信頼というきずなは終生忘れることはないだろう。(S40・商)

JUNの空気のなかで

藤澤 礎



興味の対象が飛躍的に大きくなったこと、70年安保の喧騒の中で建築の勉強に集中できなかったこともあり、キャンパスの外の時間の方が私にとって貴重になった。

1970年4月、理工学部建築学科に入学したのだが、建築を勉強したいと思うきっかけは、鉄筋コンクリート造の文京公会堂の圧倒的な存在感だった。地下鉄丸ノ内線の後楽園駅のすぐそばにあったその建築物は、戦争になろうが大地震に見舞われようが存在し続けそうな迫力があつた。あつたと表現したが、今はもう跡形もない。

高田馬場のロータリーに面してFビルという建物があり、その地下1階にJUNというジャズ喫茶があつた。あつたと表現したが、ここももう無い。

4年間の大学生活の中で、その椅子に座っていた時間の方がキャンパスにいる時間よりも長かったように思う。受験生の制約から解放され、

もともとジャズが好きだったのと、有名な美人ママで彼女と短い時間話をするのも魅力的だったため、JUNの空気に包まれていた時間が少しずつ長くなっていった。

ある時ママから奨められて読んだ高野悦子の「二十歳の原点」の中の「独りであること、未熟であること、これが私の二十の原点」の言葉にとらえられた。悦子がたびたび行ったという京都のシアンクレールというジャズ喫茶へも行ったことがある。

この本がきっかけで、時間があれば京都へ行き、京都駅の近くの大和田の泊りで素泊まりし、帰りは夜行特急の銀河で帰るといった旅を何度かするようになった。

この本のおかげで、樺美智子、フランソワーズ・サガン、ポーワールといった女性の本を読むようになり、それらの本のおかげで多くの本に出会うことができた。

であり、未熟であり、確かに私にとつての二十の原点であつた。文京公会堂、JUN、JUNのママ、それらは既に無い。今それらを思うと、万物は流転し不滅の物は無いことが実感されるが、私を創つた原点は形を表すことなく存在している。

(S49・理工)

ぼくの人生劇場

広瀬 茂雄



一九七〇年、東大を記念受験、早慶はすべて合格したが早大(政経学部)へ進学。当時は

両方受かったら早大へという流れだった気がする。(今は?)

連合赤軍事件などが起きた頃で、学生運動も過激化しキャンパスは騒然としていた。こうしたとげとげした雰囲気には違和感があつた。

政治学科のクラス(全員男!)の他に、理想肌の藤原

保信教授のゼミ(政治思想史)

サークルは政治学会に所属し、興味があつた政治学や政治哲学にそこそこ打ち込んだが、気分的にはモラトリアムで、自分自身の方向感を見出せずにいた。そんな中で愛校心の持ちようもなかつたが、沢山の友人達が学生時代を豊かにしてくれた。

人生劇場さながらのバンカラ、スポーツ選手、学者、雄弁会、プレイボーイ、詩人、居酒屋店主、行動する右翼——多士濟々、良くも悪しくも、個性的で濃い連中であつた。いつも酒を飲み、よく遊び、熱く議論したが、彼らの多くと今も交流があるが、ありがたいことである。

早稲田の力はこうした一人一人の力であると思う。

その後広告会社に就職、広告・メディアの世界でいろんな仕事をして、それなりに楽しく充実した会社生活であつた。マスコミ業界では、もちろん早大出は最大勢力であつたが、特に連帯があるわけではなく早稲田を意識することもなかつた。他校と違い、あくまで個人で、決してつるまない、ちよこちよこと派閥など作らぬ気概が実は好きである。

八年ほど前、息子の卒業式に出席、後輩達の頼もしい姿を見て誇らしく、都の西北を歌いながら不覚にも泣けてきた。それまで早稲田を意識したことはあまりなかつたのに、早稲田はいなと妙に感激した一瞬であつた。

その後、旧知の鈴木副会長からお誘いを受け練馬稲門会に参加させていただいた。皆さんますます元気で、その個性と魅力に啓発されることも多く、早稲田スピリットを練馬稲門会に見た思いがしている。希薄であつた愛校心がいまさらながら頭をもたげてきた。(S49・政経)

酒楽会 蕎麦屋「稲田屋・石神井公園店」にて銘酒「稲田姫」に陶然！

皆さんご機嫌いかがですか。青葉滴る快適なこの季節の夕刻、お酒を楽しむ面々が集まって盃を交わすのはまさに至福のひとつといえるでしょう。今回は改めて「酒楽会」のご案内をいたします。私は華岡前会長の後を受けて会の世話役を仰せつかりました森正治（昭和46年政経）です。若輩者ではありますが何卒よろしく願いたします。

「酒楽会」はその名のとおり、誰彼の分け隔てなくお酒を楽しもうという趣旨で5年前の平成23年10月に発足しました。当初は春秋の年2回の予定でしたが、あまりにも楽しいからか、また会長の人柄の故か「毎月やろう」との声がかかり、結局ほかに飲み会の行事のない月（2、5、7、9、11月の年5回）の最終木曜日に開催しています。



会場は石神井公園駅南口前の蕎麦屋「稲田屋・石神井公園店」。社長の梅原俊治さんは練馬稲門会の重鎮で、このおかげで質量とも十分な酒肴を提供していただいております。毎回開宴は午後5時、特段の堅苦しい挨拶もなく直ちに乾杯、次々に運ばれる料理と鳥取の銘酒「稲田姫」に陶然となり、いきおい会話が弾みます。知らない人同士がたちまちのうちに親しい間柄に変わります。「酒は百薬の長」をよりどころに酒をたしなむのが会の趣旨ではありますが、「お酒は苦手」という方でも楽しい時間を過ごすことができます。また、若手歓迎！ 女性歓迎！ の旗を降ろすことはありません。

酒楽会が酒乱会に墮すことなきよう適切な運営を心がけて参りたいと思いますので、お気軽にお出かけください。

新しく参加を希望される方は下記連絡先までお知らせください。お待ちしております。

（森 正治 090-4361-6656 mkka480705@yahoo.co.jp）

KKT(会員活性化チーム)の活動・PR！

練稲の皆さん、こんにちは！「KKT」(会員活性化チーム) チームリーダーの富岡晃（S41年・教社卒）です。というよりは、7年間、部長を勤めた麻雀部の富岡ですと申し上げた方が解りやすいかもしれません。

「KKT」の知名度は、まだまだ低いですが、名前のおと、練稲事務局から派生した、プロジェクトチームです。構成メンバーは、練稲19部会長（H28年4月末現在の部会数：19）が中心です。サブリーダーとして、石井弘美（S57年・理工卒）さんです。チーム事務局はありません。「手伝ってやろうか？」という御仁が現れると助かるのですが……。

さて、本年4月の役員会で再確認された課題は、①「練稲会員500名の達成策の立案推進」、②「若手会員の増加及び活性化策の立案・実施」等があります。

現在の主たる活動内容としては、次の通りです。

- ①「定例・部会長連絡会の主催」（3か月に1度開催で、11回の開催済みです。）
- ②「19部会の実施する活性化策の実行応援予算の原資確保と計画予算（案）の立案」（H26年度より実施。本年5月末で、3回目の予算申請の受付を完了し、計画予算案の策定中です。なお、19部会に参加される延べ会員数は、H27年度5月末で、700名余でした。これは、複数の入部者をカウントしていますので、在籍会員数450名より多くなっています。残念ながら、入部ゼロの会員の方が、200名余おられますので、それなりの数かと思えます。「入部申込書」は、練稲ホームページに掲載されていますが、小生のメール akiaki1943@jcom.home.ne.jp 宛お知らせ下さい。）
- ③「機関紙・活性化の風（4C、A3・4頁）」の制作・発行（既発行・6号まで完了し、KKTのPRの一助として、練稲ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。）
- ④「若手会員活性化イベントの開催」（5月21日・高田馬場ビッグボックスで、「新しい若手」vs「古い若手」・第二回カラオケ優勝大会・第1回ボーリング大会の同時開催。これは、レギュラー企画としての若手参加イベントのあり方を模索するものとして実施しています。）
- ⑤「練稲・会員アンケートの実施」（昨年12月・第1回を実施。452名の皆さんにアンケート用紙を郵送し、回収率：12%で終了しています。出来るだけ早い時期での、第2回の実施を計画しています。）

以上かいつまんで記しましたが、「KKT」(会員活性化チーム)の文字の露出に今後も頑張りたいと思いますのでよろしく願いたします。

（富岡 晃）

サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2016年4月現在、19のサークルがそれぞれ活発な活動を行っています。好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

●各サークル連絡表

2016年4月現在 (事務局:作成)

サークル	部長	卒年	連絡先(Tel)	開催予定日
1 ゴルフ部会	戸津川 隆	S39	3921-0834	毎月(日は未定、7、8、12、1、2月休会)、早慶戦(年1回)5月
2 歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	3997-5703	七福神巡り他、年6回程度(3月~5月、9月~11月)、夏冬休み
3 旅行部会	藤沢 礎	S49	3867-2210	年間3回程度
4 マージャン部会	喜々津和夫	S43	3991-7085	奇数月の最終土曜日、年2回早慶戦、年2回近隣大会、年1回熱海泊
5 囲碁部会	築山 哲	S41	6760-9579	毎月第3土曜日、年1回湯河原泊、春・秋豊島対抗戦
6 グルメ会	持ち回り		事務局 3994-8212	年2回程度
7 テニス部会(硬式)	菊田 勉	S44	3310-3900	毎月1回(日は未定)、夏合宿(軽井沢泊)
8 エッセイ同好会	照山 忠利	S45	5387-5176	偶数月(第3土曜日)
9 ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	3929-9383	箱根駅伝・野球早慶戦・早明ラグビー・早慶レガッタ
10 カラオケ部会	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月(第3月曜日)PM4:00~7:00
11 山歩き会	関口 嗣男	S39	3922-6859	毎月1回・第1木曜日定例会
12 写真クラブ	岡田 吉郎	S35	0424-52-9381	毎月第3水曜日
13 パソコン教室	築山 哲	S41	6760-9579	毎週木曜日(PM0:00~3:00)
14 ティータイムコンサート	土田 寿久	S42	3995-1227	3ヵ月に1回程度(歌・落語・等)
15 酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)PM5:00~7:00
16 釣り愛好会	岡田 吉郎	S35	0424-52-9381	年4回程度(目安)
17 青年部会	小野 惣一	S60	6914-7681	年3~4回開催予定
18 料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	3994-8665	2ヵ月に1回
19 陶芸を楽しむ会	田原 亞彦	S38	3929-7063	毎月第1月曜日

お悔やみ申し上げます: 林 毅さま、2016年3月29日逝去(1959年教育卒、当会顧問)

ぜひご覧ください!! ホームページ

開設10年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

「練稲 PRESS」と併せてご覧ください。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報・ICTチーム

鈴木奎三郎 山田興太郎 照山忠利 岡田吉郎 平田慎一郎 築山 哲 小澤由喜雄 石村 毅

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-6-2 第2春日ビル2F 練馬稲門会事務局 TEL.03(3994)8212 FAX.03(3994)8219